

城北公園のはじまり

昭和3(1928)年 豊里公園(当時、東成区)として大阪都市計画により面積約13.23ha(甲子園の約9倍)と議会決定。

昭和7(1932)年

旭区(日出る東部の意)、東成区との分区により**始まる**。

〔区画整理事業により新森中央公園や江野、大宮中、新森北公園などは、この年に誕生。〕

■昭和7年頃の区役所
(写真:「旭区史」)



■新森中央公園



■江野公園

昭和8(1933)年 第14回失業応急事業として起工、10月より淀川河川敷とともに整備。当時の面積約9.52haで園地の約三分の一は池。現在、約10.3ha。

昭和9(1934)年 大阪城の北方位置により、城北公園(旭区)と改称し、開園。当時市内で、明治24年開園の中之島公園、明治35年の第五回勸業博覧会跡地に明治42年開園の天王寺公園、昭和6年開園の大阪城公園に次ぐ大公園でした。

この年、秋に室戸台風で大被害を受けたが、施設は復旧。

天王寺公園から移設の教材植物園、学校教材園、工業用植物園(の薬草園)などで始まる。

温室、児童遊技場、ボート舟遊びの池! 魚つり用の流れ! の娯楽施設とともに貸し農園! 70区画(一区画約52㎡)がヨーロッパ大都市の例にならい、市民の健康増進の目的と園芸趣味の普及のため設けられていた(時代の先取りをした行政がすでにあった)。



■(参考)榎並小学校の遠足
城北公園北側の河川敷(昭和11年頃)
(写真:「榎並と野江の歴史」)

城北公園では、榎並小学校の遠足や城北小学校の運動会(2500人位)が行われたそうです。



■(参考)昔の貸し農園(淀川区)
(写真:「目で見える大阪市の100年 上巻」郷土出版社)

貸し農園は、第二次世界大戦中は食料増産にも役立ったということで。昭和28年までありました。

昭和10(1935)年頃

城北公園昆虫館が公園に建てられ、戦況の悪化にともない、戦時中は閉鎖。収蔵標本は、昭和48年に自然史博物館に移管されている。



市民の人気を集め、「城北公園虫の会」「昆虫と植物の会」などが活動し、数多くの昆虫専門家が育ったといえます。



■左)昆虫館内部 ■右)昆虫館外観
(写真:大阪市史編纂所)

昭和23(1948)年

(国の戦災復興都市計画により)戦後整備始まります。

(昭和25(1950)年 旭区では★新森中央公園に市内最初の公園愛護会ができます。)

昭和27(1952)年

池を少し狭め、運動場が設けられました。

昭和28(1953)年

花菖蒲園計画が、開園時の池を利用し、淀川の隣接土地に合う、水生植物として始まります。(国の大公園整備を含む第一次五ヵ年計画)

(昭和33年:国の大公園整備第二次五ヵ年計画)
(昭和34年:中小公園第一次計画)

昭和36(1961)年

第二室戸台風被害の復旧工事と共に造成工事も進められた。砂質土壌のため通水性には良いが水持ちが悪く、粘土や畑土が入れられ、砂質土は、長居公園の粘土質土と交換されて相乗効果をあげたそうです。

昭和37(1962)年10月

花菖蒲定植が始まります。

名古屋市の鶴舞公園や明治神宮の菖蒲園から株分けを受け、品種や株数が集められた。

昭和39(1964)年5月20日

市内初で当時8000株で花菖蒲園開園されます。

(都市公園整備を重点に大阪市緑化100年宣言により緑地を市民一人あたり約1平米から2平米へ)